

臼杵天神 夏祭



本社 太宰府天満宮

◇福良天満宮は、本宮太宰府天満宮の分霊社であり、その歴史は菅原道真公の一氏族が周防国大島を統制した後、菅原姓を大島姓に改め、守護神であった天神様を天正年間（1590年頃）豊臣氏全国征伐の難を逃れ、豊後国海部郡福良荘に勧請し手厚くお祀りされたことに由来します。◇江戸時代には「鷹返りのご利益」より歴代臼杵稲葉藩主の信仰社となり、明治時代には「赤猫」と称えられた臼杵商人の信仰社でありました。現在でも、学問・厄除・人生の神として臼杵市内外より多くの参拝があります。

祭の伝統

現在では、変面・太鼓・民謡なども！



天満宮のおみこし 最終日 午後1時～

◇福良天満宮の夏祭は、3社のお祭が同時に行われます。奉納行事では、激しい舞の神楽や獅子舞が一番の見所と言えます。●なかでも神楽の「柴引」は有名で、恐い面と動作の恐ろしさに「大人も童心に帰れる」伝統のある舞で、今でも多くの子ども達へ語り継がれています。●そして、花火仕掛けのオロチ退治は迫力があり、「これを見ないと夏が終わらない」との声も聞かれます。

- 獅子舞は、福良天満宮には2座伝えられ、春祭は福良獅子・夏祭は激しい舞の平清水獅子（赤獅子）で無病息災・地区の安全を祈ります。春の福良獅子は休止となりました。
- 最終日には天神様を載せた御神輿が氏子区域を巡幸します。
- また近年では、変面や太鼓など多くの行事が奉納されるようになりました。
- 福良天満宮の夏祭は、これら日本の伝統行事が多く奉納され、「懐かしさ・感動・笑顔」ある祭が、昔から継承されています。



福良天満宮本殿



奉納太鼓

たにあり 今日お祭です。お神楽などを楽しみむ前に、必ず本殿にお参り下さい

厄除 一年に一度のこの日にお神楽に願いを掛けませんか！ 健康 ●御奉納の方には、夏祭神楽祈願の守護矢などを授与致します。（申込は神社受付所まで）

綱之武（つなのたけ） 最終日、午後7時20分頃～



縛られたサラシが解き放たれると！

◇非常におもしろい神楽です。スサノオとアマテラスの喧嘩からスサノオは悪戯を始めます。その一つが高天原の神々の衣装を織っていた機織場に乱暴すること。八百万の神々が防ぐ舞です。スサノオ命が縛られたサラシを解き放つと四神を追い回す神楽でチャル舞をします。 ※チャルとは道化役で面白可笑しくふざけた舞方をする。

しばひき

柴引

三日間、随時（最終日夜は特別多神柴引）



◇岩戸にお隠れになられたアマテラス大御神に出て来てもらう為に、神々が知恵を出し合います。その一つに岩戸の前を飾るため、天香具山から太玉命がサカキ（しば）を根こそぎ取ってくる荒々しさを神楽にした舞です。面の迫力・激しい舞で、多くの子ども達が恐がる神楽です。サカキを引っ張り合います。この神楽は天神様の夏祭では定番の神楽です。最終日には引き手が多いことから特別に「多神柴引」といい、多くの神様が登場し、引っ張り合いが行われます。参拝者の笑顔が絶えない神楽でもあります。

あかしし

※重岡岩戸神楽伝承では「太玉命」は「山雷神」と記されています

赤獅子

最終日、午後8時～

（日中は各家御祈禱）



◇福良天満宮には福良と平清水の獅子二座が伝わります。江戸時代から続く平清水獅子は臼杵系を代表する舞いです。「舞い込み」「引き獅子」「早獅子」「三拜」が舞われます。現在は「赤獅子」と改称。最後に、樽酒の鏡割りがあり、皆様に振る舞いますので、厄除・健康・開運招福の御神酒をお召し上がり下さい。

岩戸開き 最終日、午後9時頃～



アメノウズメの舞

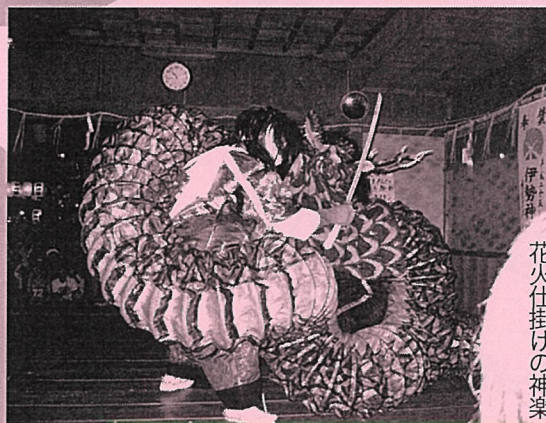
◇太陽神であるアマテラス大御神が岩戸に身を隠したため、世の中は真っ暗闇になり、悪神・悪霊により災いが起こり始めます。そこで神々が「何とかアマテラス大御神に出てきてもらおうと」協議をし、思金神の提案により、岩戸の前で天見屋神が祝詞を上げ、天宇賣命が舞い・八百万神が囃し立てると、岩戸からアマテラス大御神が少しのぞき込みました。そこで天手力男神が扉を開け天照大御神が登場。そして一人の神が手早く「ここから先へは入ってはいけない境界のしるしとなる注連縄を張りました。世の中は明るさを取り戻しました。我が国では太陽は天照大御神と言われる由縁です。

やくもはらい

おろちたいじ

八雲松（大蛇退治）

最終日、午後9時40分頃～



花火仕掛けの神楽

スサノオの悪行からアマテラス大御神が身を隠した罪により、高天原から追放されたスサノオは出雲国に降り立ちました。そこで川の上流から箸が流れてきたため、「住人が居る」と訪ねたところ、泣き声が聞こえる。名を聞くと足名椎・手名椎、娘は櫛名田比売といい、毎年ヤマタノオロチがやってきて娘が餌食にされるといい、最後の娘だという。スサノオはオロチ退治を約束し求婚を迫った。まず酒樽を準備させ、酒を飲んで寝たところを退治する。退治後、オロチの尾から立派な太刀が出てきます。後の「草薙の剣」です。スサノオとクシナダ姫は結婚し御殿たてます。その喜びの歌が「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」

たにあり ●初日・二日目は、その他にも、数々の岩戸神楽が奉納されます。